

# 私立 北里大学

取組名称 学生全員の就職と就職満足度の向上を目指す就職相談体制の強化

取組担当者 副学長・就職センター長 陽 捷行

## 1. 本学の概要

北里大学は、1987(昭和62)年1月に北里研究所創立50周年を記念して創設された。本学は、世界的な細菌学者であり、我が国の近代医学と衛生行政の発展に多大な貢献を果たした北里柴三郎を学祖と仰いでいる。

本学は、北里が成した学統を受け継ぎ、北里が顕現した「開拓」「報恩」「叡智と実践」「不撓不屈」を建学の精神としている。

現在は、白金キャンパスに薬学部、十和田キャンパスに獣医学部、三陸キャンパスに海洋生命科学部、相模原キャンパスに医学部、看護学部、理学部、医療衛生学部の計7学部を擁する生命科学系の総合大学である。学部学生数は7,653人(2010(平成22)年5月1日現在)である。

本学では、建学の精神を21世紀の現代に投影させた次の各項目を持って大学の理念とし、大学組織の到達目標及び行動規範としている。

- ①生命科学の最先端に位置する教育・学術機関となる。  
〔生命科学のフロンティア〕
- ②社会の要請に応じた教育と基礎研究・応用研究に最善を尽くし、絶えず改善改革を進める。
- ③新研究分野の開拓や新規技術の創出ができる独創性と開発能力の涵養を通じ、生命科学をリードする研究者、教育者を養成する一方、専門職業人として必要な高度専門知識、技術を教授し、社会に有為な人材を養成する。
- ④生命科学の最新の知見を学生、教育者、研究者のすべてに望みどおりに提供する。
- ⑤教育・研究・医療の諸活動を通じて社会貢献を目指す。

## 2. 本取組の概要

経済不況が学生の就職環境に深刻な影響を及ぼしている。内定の得られていない学生が増え、将来への不安が増している。生命科学領域の学問を教育する本

学は、入学・学習目的を職業と結びつけた学生が比較的多く、職業への関心の高さは就職活動における強みの一つとなっている。しかし、社会経験の乏しい彼らにとって、就職活動への漠然とした不安や就職先選択、就職面接への戸惑いは少なくなく、個別相談を受ける者が急増している。そこで本学は、学生全員の就職と就職満足度の向上を目指し、就職相談の専門家であるキャリアカウンセラーを増強し、相談体制を強化する。大学地域コンソーシアムや商工会議所、同窓会とも連携する。達成度を把握するために満足度調査を行い、改善点をPDCAサイクルにより解決する。相談員を就職支援体制に位置付け、職業観・勤労観、主体的に職業を選択できる能力、職業人として生涯に必要な総合的能力・態度を育成していく。

## 3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

### (1) 趣旨・目的

本学は、学生が確かな職業観・勤労観の下、主体的に職業選択ができるよう、キャリア教育科目、職業指導、面接相談、各種支援講座等の体系的な就職支援体制を構築している(図1)。しかし経済不況下、職業・就職相談、模擬面接等個別相談が急増している。本取組は、全員就職内定達成と就職満足度の向上を目指し、就職相談員の増強による就職相談体制の強化を目的とする。

### (2) 達成目標

アウトプット目標として、内定率100%を目指すとともに、学生相談件数、各種支援講座参加者数を20%増加させる。

また、アウトカム目標として、就職情報の提供、就職相談の応待、選択した職業・就職先についての満足度調査を行い、調査結果を次年度の取組に反映し、満足度を継続的に向上させる。調査を通して、身に付けた汎用的技能や専門的知識・技能と職業との関わりも測定する。

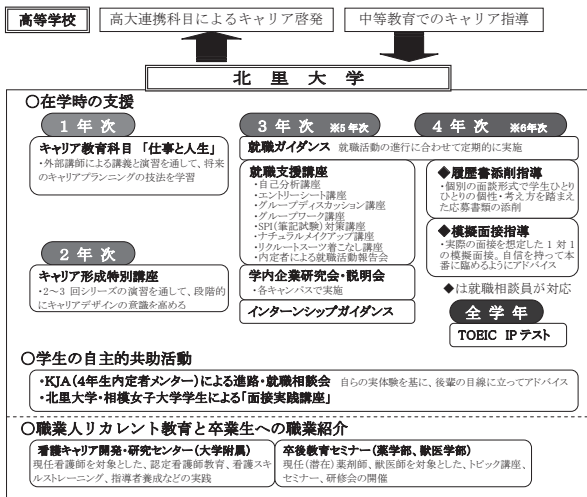


図1 北里大学の就職支援体制

## 4. 本取組の具体的内容・実施体制

### (1) 具体的内容

本取組では、特に3・4年次生の就職相談体制を充実させるため、就職相談員の配置期間(10月から3月、延3名/週)を通年に拡大し、増加する個別相談に対処する他、セミナー形式の講座を開催し学生の要望に応えていく。また、大学地域コンソーシアム、商工会議所等と連携した就職講演会も開催する。2009(平成21)年度及び2010(平成22)年度に実施した(または実施中の)具体的な取組内容は以下のとおりである。

#### (i) 2009(平成21)年度の具体的取組

##### ①就職相談員(キャリアカウンセラー)の配置

2009(平成21)年度は、就職相談員(キャリアカウンセラー)の配置により、主に就職活動中の3年次生に対し個別相談、模擬面接、履歴書等の添削指導等を行った。

##### ②就職支援講座「楽しく就活する方法教えます」の開催

2010(平成22)年3月13日に本学相模原キャンパス、同20日に白金キャンパス、同27日に相模原キャンパスの計3回にわたり同一内容で開催した(写真1)。就職活動中である3年次生にあっては、この時期から希望する企業等へのエントリーや面接が多数行われることから、活動への不安や迷いを訴える学生が少なからず始まる。このため、支援講座の内容を十分に吟味し「楽しく就活する方法教えます」と題し、日頃交流の少ない他学部学生を交えた中で、「自分の良さ再発見ワーク」、「グループワーク」、「模擬面接」等を取り入れたプログラムを構成した。講座を受講することで、就職活動とは何かを明確にし、もう一度原点に戻り、新

たな気持ちで今後の就職活動に集中できるよう支援した。

これらの成果として、各学生は、就職相談員から自己分析の不足、言語化の不足、柔軟性等々について適切な助言を得て、間近に控えた面接試験に向けた改善点を見出すことができた。また、就職支援講座をほぼ同一内容で3月中に計3回開催し、できる限り多くの学生が受講できるよう配慮するなど、学生への就職支援体制の充実を図ることにより、相模原・白金キャンパスに在籍する学生のみならず、遠隔地の三陸キャンパス、十和田キャンパスから上京し就職活動中の学生も受講することができた。

受講した学生は、職業観・労働観をさらに深めるとともに行動を見直す機会となった。受講後のアンケート調査や直接聞き取りしたところによると、「改善点を把握できた」、「一人で悩み辛かったが、頑張れる気持ちになり、稔り多い一日だった」、「自分が気付いていない良い点・悪い点の発見に繋がった」など、受講者全員から「受講して良かった」と報告があり好評を博した。支援講座を受講した学生は、確実に一歩前進したことが窺え、教育の面から見ても有効な取組であった。

これらの成果は、全学就職委員会において、本取組がキャリア教育の観点で大変有効であったこと、2010(平成22)年度以降も継続して推進していくこと等、事業の経過報告及び今後の予定について協議した他、就職相談体制の強化に向けて全学で教職協働による支援を強化・充実させていくことを相互に確認した。

また、本取組の経過報告及び今後の予定について、2009(平成21)年度事業業績「学校法人北里研究所に於ける自己点検・評価報告書」に概要を掲載することとした。



写真1 「楽しく就活する方法教えます」風景

(ii) 2010(平成22)年度の具体的取組

①就職相談員(キャリアカウンセラー)の通年配置

2010(平成22)年度から、従来配置のなかった前期(4~9月)においても就職相談員(キャリアカウンセラー)を週2回配置することにより、相談体制を強化させた結果、きめ細かな支援が可能となり相談件数の増加に繋がった。

②「就職対策マラソン」の推進

2010(平成22)年度は、5月から、就職相談員(キャリアカウンセラー)の協力の下、通常就職相談業務の他に、学生の就職活動を充実させる支援として、新たな企画「就職対策マラソン」を推進している(図2)。

この企画は、筆記試験、自己分析、自己表現、時事能力の4つの視点で出題された毎週1枚(A4両面)の課題に学生が取り組み、就職相談員(キャリアカウンセラー)による毎回の添削を経て、12月末を目標に計30回達成(ゴール)することにより、前出4つの能力向上を目指すものである。本企画は、就職センター窓口で学生との「対面」により運営している。また、白金、十和田等のキャンパスでは就職センターと当該学部事務室との連携により運営している。8月現在のエントリー数は450名を突破し、当初の予想を大幅に上回る好評の企画となっている。

この企画の具体的な成果については、2010(平成22)年度末以降の点検評価により明らかになるが、現時点での学生からの評判は、「普段あまり気にしていなかった時事問題に目を向けるようになった」「多くの情報の中から目的の情報を収集・分析・加工することが身に付くようになった」などの声が寄せられた。



図2 「就職対策マラソン」周知用ポスター

③Webカメラを用いた個別相談の強化

十和田、三陸キャンパスに在籍する学生からも就職相談員(キャリアカウンセラー)との個別相談の要望が出されていたため、パソコンのインターネット回線を利用して、遠隔地においても相模原キャンパスの学生と同様の相談を行っている(写真2、3)。

今後はさらに利用を促進していくが、本来、学生と直接対面する相談体制が適切であることから、遠隔地キャンパスにも就職相談員(キャリアカウンセラー)の配置を進めていく。

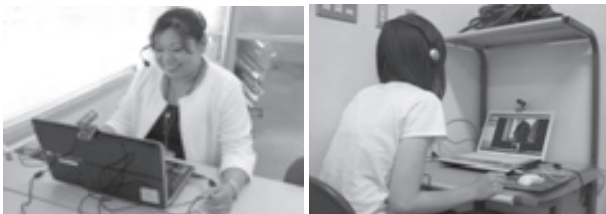


写真2(左)相談風景(キャリアカウンセラー)

写真3(右)相談風景(学生)

(iii) その他の具体的取組

現在、相模原・町田大学地域コンソーシアム等と連携した就職講演会の開催に向けて協議中である。具体的には、地域企業による就職講演会を10月以降に開催することとしている。

(2) 実施体制

支援体制は、全学及び各学部・研究科の重層的体制の下、年間を通して教職協働による支援を行っている(表1)。副学長が就職センター長となり、全学就職委員会と就職センターを主導する。各学部には各就職委員会と就職係を置ききめ細かい指導を行う。就職相談員はカウンセリング技法を身に付けた外部専門家(キャリアカウンセラー)を登用、就職センターに所属し相談・助言に当たる。

表1 就職センターの年間就職支援の概要

開催	対象学年	タイトル	内容	備考
4月	3~6年生	新年度ガイダンス	・就職概要説明等、年間スケジュール説明等	各学部で実施 就職センター支援
5月	全学生	TOEIC IPテスト	・各キャンパスで実施	就職センター
6月	2~6年生 (学部により対象学年は異なる)	就職ガイダンス 就職支援講座	・就職の心構え、就職手帳の活用法、各種就職関連資料配布等、自己分析講座 就職活動マナー講座 他	各学部で実施 就職センター支援
10月	主に3年生	インターンシップガイダンス 就職ガイダンス	・インターンシップ 概要説明、先輩体験報告 ・実践例、就職システム説明、進路登録等の説明、講演	就職センター
	主に3年生	就職支援講座	・エントリー、履歴書の書き方、各種試験対策講座(SPI等)、自己分析講座	就職センター 各学部で実施
	全学生	TOEIC IPテスト	・各キャンパスで実施	就職センター
11月	主に3年生	就職支援講座	・自己分析講座、エントリー講座、グループディスカッション講座、グループワーク講座 ・各種試験対策講座、公務員試験対策、外部講師による講演等	就職センター 各学部で実施
12月	3年生	就職支援講座 各種ガイダンス	・大学院入試説明、講演、各種就職試験対策講座等、エントリー講座、面接実践講座(相模女子大学共催)、キャリアイベント講座、内定者による就職活動報告会 ・相模原キャンパスで全学部生対象	就職センター 各学部で実施
	主に3年生	相模原企業研究会		就職センター

※これとは別に、各学部において独自の各種支援講座、対策試験、企業研究会を実施する。  
※就職支援講座は、時期をずらし2回ずつ実施するなど、実習などで参加しづらい学生にも配慮している。



## 5. 本取組の評価体制・評価方法

### (1) 評価体制・評価方法

本取組の評価は、全学就職委員会において達成度をA～Dの4段階で自己評価する。評定は毎年、全学自己点検・評価委員会で精査される。結果はキャリア形成上関連の深い「教育内容・方法」、「学生生活」等と合わせて学部長会に報告し、伸長点・改善点・改善方策を確認する。さらに「到達目標・改善方策管理表」に組み込み、PDCAサイクルによる改善体制を構築している。

### (2) 達成目標に対する達成度についての指標

#### (i) アウトプット指標

- ①内定率100%
- ②学生相談件数20%増
- ③各種支援講座参加者数20%増

本取組を推進する中で、これら指標の達成を目指していく。

#### (ii) アウトカム指標

- ①就職情報の提供  
量、水準、適時性、寄与度
- ②就職相談  
助言の適切性、親和性、寄与度
- ③職業・就職先への満足度  
入学目的・学習内容との関連、志望順位、期待度
- ④学士力との関連性  
人生における職業の意味合い、汎用的専門的知識・技能の水準等

## 6. 本取組の実施計画等

### (1) 実施計画

本取組における2009(平成21)年度の事業は前述のとおりである。2010(平成22)年度の計画は、現在実施中も含めて以下のとおりである。

#### (i) 4月～3月

- ・就職相談員(キャリアカウンセラー)の通年配置による就職相談体制の強化

#### (ii) 5月～12月

- ・就職対策マラソン

#### (iii) 10月～12月

- ・大学地域コンソーシアム等と連携した就職講演会の開催

大学地域コンソーシアムや商工会議所等の地域団体と連携した就職講演会を開催することにより、従来、

情報の入手が十分ではなかった地元企業の経済活動、独自性、地域貢献等の実情や採用情報等を把握し、就職先企業の発掘・確保に繋げていくなどの連携強化が期待できる。これらを実施することにより、学生の確かな職業観・勤労観を涵養するための一助としていく。

#### (iv) 10月～3月

- ・遠隔地キャンパス向け未内定者相談会の開催

就職相談員(キャリアカウンセラー)を毎月1回派遣し、主に未内定者を対象とした相談会を開催する。

学生の個別相談を行うことにより、就職先選択及び就職面接に対する不安や戸惑いの解消を図り、学生が自信を持って就職活動に集中できるよう支援する。

また、就職活動に対し自信を喪失した学生等の把握にも繋がり、教員との連携を図ることにより適切な教育指導が可能となる。

#### (v) 10月～3月

- ・ミニ講座の開催

就職相談員(キャリアカウンセラー)によるミニ講座を開催する。内容は、主として筆記試験対策とする。

#### (vi) 11月

- ・全学就職委員会の開催

事業実施状況の中間報告を行う。

#### (vii) 3月

- ・学生満足度調査の実施

#### (viii) 3月

- ・全学就職委員会の開催

事業完了の報告及び今後の取組について協議する。

#### (ix) 3月

- ・事業実施状況の評価と経過報告(学内)

事業実施状況の評価と経過報告(学内)を行うことにより、本年度事業における改善点を把握し次年度取組に反映させ、本補助事業の目的達成に向けて推進する。

### (2) 財政支援期間終了後の展開

就職相談員(キャリアカウンセラー)の通年配置は、財政支援期間終了後も維持する。本学の就職支援活動は、高校生のキャリア啓発から、在学中における職業観・勤労観及び社会人・職業人としての基礎的専門的能力の育成、卒業後は広く他校出身者を含む職業人へのリカレント教育を実施、職業能力の向上に努めている(図1)。本学のこれらの支援は、今後、各学部・研究科の教職員、上級生アドバイザー(内定者)、同窓生等とともに全学の有機的な連携を図り、地域機関との連携の下、引き続き強化していく。